

須崎市地域公共交通活性化協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和5年度)

須崎市基礎データ

須崎市は高知県中部に位置し、東西25km、南北13km、総面積は135.20Km²で、人口は19,900人(令和5年11月末)である。

須崎市における主な公共交通概要

鉄道

- ・JR土讃線

バス

(路線)

- ・高知高陵交通(株)
梶原～須崎線、矢井賀～須崎線
須崎～高岡西芝線

(フィーダー)

- ・須崎市
南地区と市街地を結ぶ自家用有償旅客運送

(スクールバス)

- ・須崎市
浦ノ内地区と市街地を結ぶ混乗バス

離島航路

- ・市営巡航船
浦ノ内湾内の北岸と南岸を結ぶ
(離島航路運営費補助金対象)

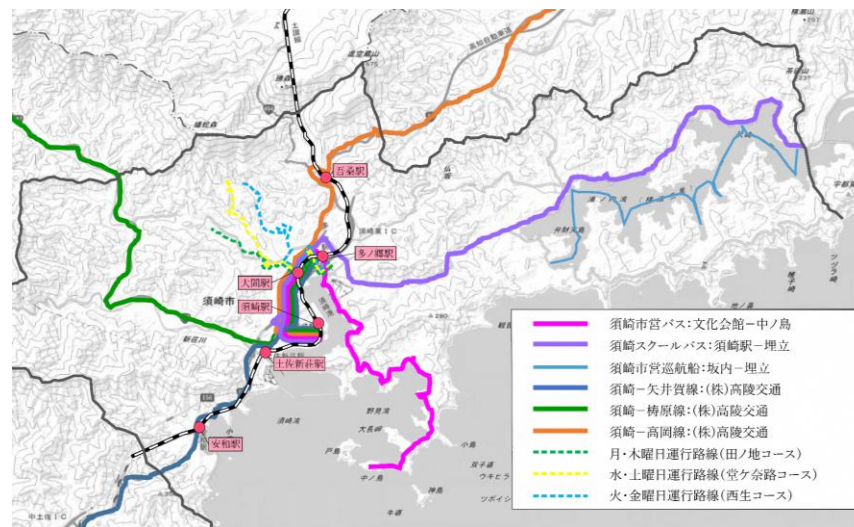
地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

南～須崎線の運行区域である南地区は須崎市南部に位置し、平成4年5月まで須崎港～野見湾を結ぶ巡航船が運航していた。しかしながら乗客の減少により廃止となり、以降代替バスを市が運行している。

市営バスは市街地と南地区を結ぶ唯一の公共交通であり、高齢者等の移動手段を持たない住民の通院や買い物等には必要不可欠な公共交通である。

今後においても地域住民の移動手段として、より利用しやすい公共交通の構築に向け取り組んでいく。

須崎市の公共交通ネットワーク図



協議会の構成員

四国運輸局高知運輸支局、高知県、高陵交通株式会社、
有限会社 さくら観光、須崎しんじょうハイヤー株式会社、
株式会社横浪交通、住民代表

前年度の事業評価における課題

市営バスの利用促進に向けては、利用者が分かりやすい公共交通マップを作成し、広く周知を図るとともに、引き続き須崎市ホームページ等での継続的な情報発信やバス停へのベンチ設置等を計画的に行っていく。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていない市営バスおためし乗車ツアーについては、早期実施に向けて協議中である。

定量的な目標・効果

(目標)

人数:22,705人

運賃収入:4,186,000円

(効果)

定期路線バスを維持することにより、南地区だけでなく、市営バス路線沿線に居住している高齢者や自家用車を持たない住民の市街地への通院・買物等、外出の機会が確保できる。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

市営バスの利用促進に向けては、須崎市ホームページ等での継続的な情報発信をし、待合空間については須崎局前や西崎児童公園前にベンチを設置した。なお、ベンチについては、十分な設置場所が確保でき、かつ土地所有者との協議が調った箇所から順次設置していく。

市営バスの乗り方や乗降場所の周知のため、関係機関と連携して「市営バスおためし乗車ツアー」を実施した。参加者からは「市営バスへの乗り方や運行路線が分かって良かった」等の感想が聞かれ、好評であったことから引き続き取り組みを進める。

自己評価

事業実施の適切性

計画通り、事業は適切に実施できた。

「定量的な目標・効果」の達成状況

【乗客数】

目標達成率: 79.9%
目標 : 22,705 人
実績 : 18,146.5 人
対前年比 : 94.1%
対前々年比: 93.3%

【運賃収入】

目標達成率: 87.9%
目標 : 4,186,000円
実績 : 3,677,800円
対前年比 : 82.6%
対前々年比: 84.5%

【収支率】

対前年比 : 1.1%
対前々年比: 1.0%

乗客数は目標を下回ったものの、前年・前々年とほぼ横這いで同水準を維持しており、市民の移動手段として役割を果たした。今後は利用者を増やすため、さらなる周知に取り組むとともに、他の公共交通機関との接続による利便性向上を図る必要がある。

今後の事業に向けた改善点

市役所前のバス停は歩道が狭く危険なため、須崎警察署側の歩道の幅が広い箇所への移設を検討する。

また、以前より要望の多い、多ノ郷駅前(北側)を通る路線の計画を継続して行う。

なお、JR等、他の公共交通機関への接続については、スムーズな乗り継ぎが可能となるよう関係機関等と運行時刻の協議を行う。

市営バスの利用促進に向けては、利用者が分かりやすい公共交通マップを検討し、広く周知を図るとともに、引き続き須崎市ホームページ等での継続的な情報発信やバス停へのベンチ設置等を計画的に行っていく。

その他PRポイント